

スクール・ポリシーに基づく教育活動の評価等について

1 スクール・ポリシー等の位置づけ

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
県	教育大綱 (推進期間:4年間)				次期 策定(予定)	
	教育振興計画 (計画期間:5年間)				次期 策定(予定)	
県教委	スクール・ミッション		策定 R3.4		(修正可)	
	学校教育目標			「校訓・校風等」 に置きかえ可		
学校	学校経営方針			スクール・ポリシー に移行		
	スクール・ポリシー 三つの方針		策定 R3.7		(修正可)	
	本年度の重点目標 〈学校評価〉					
学校運営協議会		導入 R2 3校	R3 +17校	R4 +13校	全校 設置	
高校入試			ポリシー を周知	ポリシー を反映		

2 スクール・ポリシーと学校運営協議会の関係(案)

- (1) スクール・ポリシーに基づく教育活動について、年度ごとに学校運営協議会で意見をいただく。
- (2) スクール・ポリシーの見直しについて修正が必要であるか、教育振興計画の策定期間(5年ごと)にあわせて学校運営協議会と協議を行う。

3 スクール・ポリシーに基づく教育活動の評価(案)

- (1) 令和4年度から、スクール・ポリシーと関連させた重点目標を設定する。
- (2) 重点目標の達成状況や達成に向けた取組の適切さ等については、学校評価等を活用して毎年度評価する。

〈学校評価〉

公立学校では、毎年度、重点課題の把握により重点目標と評価指標の設定等を行い、自己評価及び学校関係者評価を実施し、その結果を公表している。

スクール・ポリシーと学校評価の総括評価表を関連させるイメージ

スクール・ポリシー		
育成を目指す 資質・能力に関 する方針	(関連する) 教育課程に関 する方針	(関連する) 入学者の受入 れに関する方 針
◎地域社会を 活性化させるた めの発想力と実 行力を育成しま す。	◎学校独自の 科目『徳島の 環境問題』や 『おもいやり学』 を設定していま す。 ◎毎年1回「全 クラス対抗！地 域ゴミ拾い大 会」を実施しま す。 ◎「四国霊場 〇～〇番ボラ ンティアガイド 体験(〇泊)(希 望者)」を実施 します。	◎生徒会の中 心人物として 学校の活性化 に意欲的に取 り組む生徒を 募集します。

学校評価						
自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方針		
本年度の 重点課題	本年度の 重点目標	評価指標と 活動計画	評価		学校関係者の意見	
・生徒の地域課題に対する関心を高める。 ・地域に根ざした学校づくりに取り組む。 ・生徒会活動を活性化し、地域社会との交流を図る。	(全校レベル) 1)学校独自の科目や地域ゴミ拾い大会、四国霊場ボランティアガイド体験をとおして、地域社会と関わる機会を増やし、関心を高める。 (下位組織レベル) ①学校独自の設定科目を開設し、地元地域の方を外部講師として招聘し講義を行う。(教務課) ②地域ゴミ拾い大会やボランティアガイド体験をとおして、地域との交流を図る。(特活課・渉外課) ③ボランティアガイド体験への参加を呼びかける。(特活課・各学年・担任)	評価指標 1)地域社会に係る課題の理解が深まったとする生徒の割合80%以上。 ①『徳島の環境問題』や『おもいやり学』の中で、地元地域の方を外部講師として招聘し、それぞれ年間2回実施する。 ②大学や地元のNPO法人等と教職員による協議会を年間3回以上開く。 ③ボランティアガイド体験の参加者を15名以上とする。 活動計画 1)地域連携の在り方協議会を校内に設置し、取組の充実を図る。 ①各学年ごとに年間指導計画を立て、それに基づき講義を行う。 ②連絡協議会を各学期ごとに1回以上設定する。 ③生徒会主導でチラシを作成するなどの取組を行い、各学年、各HRで周知する。	評価指標の達成度 1)学校独自の科目では76%、地域ゴミ拾い大会では84%、ボランティアガイド体験では90%だった。 ①新型コロナウイルスの影響で当初の予定からずれこんだが、それぞれの科目において、オンラインで講義を実施した。 ②新型コロナウイルスの影響で連絡協議会は1回しか開催できなかった。 ③ボランティアガイド体験の参加者は19名だった。 活動計画の実施状況 1)各学期ごとに1回実施した。「教科を横断した授業の在り方」について協議し、授業内容を見直した。 ①年間指導計画は立てたが、外部講師による講義の時期は遅れた。 ②新型コロナウイルスの影響で1、2学期は中止し、3学期のみ実施した。 ③生徒会で2種類のチラシを作成した。また、生徒昇降口掲示板に広報コーナーを設けて周知を図った。	総合評価 (評定) B (所見) 全校レベルの重点目標は概ね達成できた。しかし、下位組織レベルの重点目標は、新型コロナウイルスの影響もあり達成できないものもあった。今後はオンラインの有効活用をより一層進めることで目標を達成したい。	1)新型コロナウイルスの影響もあったと思うが、全体として生徒の理解が深まったことは良かった。一方、理解が深まっていないとする生徒への指導のどこに課題があったのか、把握する方法を検討してみようか。また、独自科目の内容の見直しも行ってほしい。 ①当該講師は他校でも講師をしており多忙とのことである。もっと広く地域社会と連携し、講師の確保に努める必要がある。 ②今後も新型コロナウイルスの影響が懸念される。より一層のオンラインの有効活用を図ってほしい。 ③過去の参加者の体験談を有効活用するなどして、より一層の参加を促してほしい。	○取組に係るレポートを課すことで課題意識の深化を図るとともに、指導の問題点等も併せて把握する。 ○大学や関係機関等を通じて講師の依頼が可能な人を紹介してもらい、リストを作成する。 ○GIGAスクール構想への対応を図るために、教職員の研修を充実させる。